

広報

ときめき きらめき いきいきを伝える



関市イメージキャラクター
「関＊はもみん」

Seki

せき

2013

10/1

No.1632

特集

災害から命を守るために
～自助・共助は減災の知恵～……………P2

TOPICS

市政功労・教育功労者表彰…P7

第46回刃物まつり…P8

関市保健センターリニューアル…P10

刃物セミナー受講生募集…P11

お知らせ…P20

健康情報…P32

文化会館・図書館…P33

いざという時に備えて(上白金区防災訓練)



特集

命を守るために 災害から

照会先

危機管理課

☎ 23-7736

（自助・共助は減災の知恵）

近い将来、南海トラフ巨大地震が起これると予想されています。また、集中豪雨による水害、土砂崩れ、竜巻や台風など、私たちの身近でいつ災害が発生するかわかりません。

災害が発生した時、あなたはどんな行動を取りますか？ まずは自分と家族の身の安全を確保し、近隣住民の救助や援護をしましょう。

そのためには、日ごろからしっかりと訓練しておく必要があります。

災害の発生を防ぐことはできませんが、「自助」「共助」によって少しでも被害を減らすことはできます。

ここで、自主的に防災訓練に取り組んでいる各地区の自主防災会を紹介します。



地区で初めての訓練を実施

上白金公民館をメイン会場に6月22日、上白金地区住民による防災訓練が行われ、住民ら約340人が参加しました。

上白金区は、過去に長良川の氾濫による被害に見舞われたほか、地盤が弱く大地震の際には液状化などが懸念されており、東日本大震災以降、独自で危機管理講座を2回にわたり開催し、防災意識の高揚を図ってきました。

今回、この講座を実践で生かそうと、避難訓練をはじめとする防災訓練が実施されました。

訓練は、集合場所への避難、要援

護者の避難誘導をはじめ、消火器による初期消火、水門の開閉手順の確認、地震体験のほか、心肺蘇生法、

救急救命（応急手当）訓練、炊き出し訓練などが実施され、参加者は各訓練に真剣に取り組んでいました。

また、公民館から半径100m以内にある消火栓の位置を確認し、4人1組で放水訓練をしたほか、地区内にある備蓄倉庫の中の発電機を使用し、照明灯を点灯させる発電機稼働訓練など、本番さながらの訓練が行われました。



地域愛の芽生えに期待

「過去2回の講座で知識は深めましたが、いざ有事の対応ができるか不安で、ぜひやってみよう」と今回初めて訓練を実施しました。

机の下に隠れるなどの自分の身を守る行動からスタートし、避難訓練、その他各種の訓練をしました。避難訓練は、『報告』が大切ですね。たと

え全員が避難できても、報告がなければ50点だと思います。それによって、行動が決まってくるからです。

子どもからお年寄りまでが訓練に参加し、忠実に実行できました。いざという時に効果が発揮できるよい体験ができたと思います。

訓練によって災害対応の技術を高めることももちろんですが、訓練を通して区民同士の会話が始まり、コ

ミュニケーションが生まれることが大切だと思います。地付きの人と新しい人との顔が覚えることができますし、気に掛けて、いざという時の助け合いが可能になると思います。

来年度以降も継続して訓練し、有事に備えるとともに、地域愛が芽生えてくることにも期待したいですね。」



◎区長・後藤雅春さん(61歳)

全員で手順を確認

東志摩公民センターなどを会場に6月23日、東志摩地区住民による防災訓練が行われ、住民ら約150人が参加しました。



東志摩区は、長良川と小俣川流域にあり、過去に洪水の被害に見舞われた経験から、洪水を想定し水防技術の習熟と防災意識の高揚を図る目的で、住民が一体となった実践的な訓練を2年に一度実施しています。

訓練は「長良川が警戒水位を超えた」との想定で実施され、区長が自主防災会役員を招集して、対策本部を設置し、避難所を東志摩

公民センターに開設。消防団に出勤要請し、屋外拡声子局で避難を呼びかけました。

住民らは班ごとに避難を実施、自力で避難できない人のためのリストアップ、担架搬送訓練、初期消火訓練や炊き出し訓練も行われました。

小俣川樋門部長による水位情報の伝達訓練の後、洪水をせき止めるための輪中堤の仕切り板を設置し、ブルーシートを掛けて土のうで押さえました。参加者は作業の手順を確認し、万が一の災害に備えて取り組んでいました。



【防災・減災への備え】

大規模災害が発生すると、市や各防災機関は、全力を挙げて防災活動にあたりますが、消火・救助の要請が集中、情報網の寸断、道路の損壊などの悪条件が重なって力が分散され、被災地域すべてを救うことができないことも考えられます。

このような事態に直面した場合、市民の皆さんが地域ごとに団結し、初期消火、被災者の救出救助や避難誘導などの活動が必要です。また、こうした訓練を行うことも、自主防災活動の一つです。

◆災害が発生するまでにできる自助Ⅱ防災

- ▽自宅の家具の固定
- ▽ガラスの飛散防止フィルム
- ▽住宅の耐震診断
- ▽非常食や非常持出し品の準備
- ▽危険箇所、避難経路の確認
- ▽家族や地域での話し合い など

◆災害が発生してからできる自助Ⅱ減災

- ▽自分の身(頭など)を守る
- ▽避難口の確保
- ▽火の始末
- ▽避難
- ▽情報収集

◆避難情報などの発信手段

市では、避難勧告などの大切な情報を、必要に応じて複数の手段を用いてお知らせします。

▽関市あんしんメール

※同報無線の内容を補完してメールします。登録については、市ホームページの「防災のてびき」をご覧ください。不明な点は、お尋ねください。



◎区長・小林吉夫さん(63歳)

住民同士の協調性

「過去の水害の経験から、水防訓練の大切さを全員が認識しています。私の家は関係ないなんて言っておられないですよ。危機感が違います。」

今は個人情報のことを言われますが、名簿で住んでいる人を把握し、有事に役立てるようにしています。

訓練では、若い世代の参加もあり、技術の引き継ぎが図られました。先

人の努力により、立派な施設(樋門)が作られたのですから、地域のこの財産を機能させるために訓練は必要で、とても意義があります。重要性を認識し、日ごろからの管理も当番制により徹底しています。

訓練を繰り返すことで意識が高まり、住民同士の協調性が生まれますね。地域の絆がより深まるのが願ひでもあります。」



◎西部地区防災訓練連絡協議会
会長・松下博さん(71歳)

地域の連帯感を養う

「地理的な事情で毎年訓練を実施し、意識の高揚や技法の向上とともに、地域の連帯感を養っています。被害が広範囲になれば、消防や行政の支援は時間がかかったり、届かないこともあると思います。災害が発生し危険と感じた時は、避難指示

が出ていなくても早めに自主避難するなど、自分と家族の安全を図るためには自ら判断して行動することも必要だと思っています。災害はいつ起きるかわかりません。自助、共助が非常に大切ですね。防災・減災の力と意識を高めていく必要があると思います。」



中学生も初めて参加

下白金地内の今川橋下流の今川(長良川支流)左岸河川敷で8月18日、西部地区住民による防災訓練が行われました。

同地区は、長良川、津保川、武儀川が合流し、水害の危険が高く、水防訓練などの防災訓練は不可欠であり、地区独自で毎年実施しています。

西部地区防災訓練連絡協議会主催で、西部地区住民など約600人が参加。また、将来に備え防災技術を身につけようと、今年初めて小金田中学校生徒約50人も参加しました。訓練は、消火器訓練、通報訓練、水防訓練(土の

う積み)、煙道体験のほか、心肺蘇生法、炊き出し訓練を実施。特に、水防訓練では、杭が打てないアスファルト上での越水に対応した改良積み土のう工法を初めて学びました。

西部地区公民館では、社会福祉協議会西部支部が中心となり、要援護者の安否確認・避難誘導訓練が行われ、民生委員・福祉委員など関係者が参加しました。独り暮らしの高齢者や障がい者などの自宅を訪れて安否を確認し、避難場所へ誘導。避難場所までの時間を把握し、白地図で位置を確認しながら情報の共有を図りました。



▽携帯3社(ドコモエリアメール、au・ソフトバンク緊急速報メール)配信

▽同報無線

※豪雨の音などにより、聞き取りにくい場合があります。

▽同報無線確認ダイヤル

☎0800-2000-8773(通話料無料)

※24時間以内の放送が順次流れます。電話機の#で次の放送、*で前の放送が聞けます。

▽市ホームページ

▽市職員や消防団などの広報車による巡回放送

◆訓練などを行う時は力になります！

▽関市防災指導員(全43人)

市内各地域に在住し、地域の防災リーダーとして市から任命を受けた防災に関する有識者です。地域住民に対する防災知識の普及や防災訓練の指導など、地域の自主防災力の向上を担っています。

▽関市耐震貯水槽消火救助隊(全23隊)

災害時の初期消火や救助活動などを目的として、地下式の防火水槽がある地域ごとに小型動力消防ポンプを配備して組織されています。

いつ起きるとも知れない災害に備え、防災技術の向上に努めています。

